

3年 道徳科学習指導案

令和4年1月15日(土)

3年 1組 34名 授業者 安藤 明日香
 3年 2組 35名 授業者 荒井 秀人
 3年 3組 34名 授業者 仲田 喜信

- 1 主題名 温かい家族
- 2 教材名 「ぼくのおばあちゃん」 東京書籍
- 3 ねらい 家族を敬い、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする態度を育てる。
- 4 展開

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	※指導上の留意点
導入	1 家のために仕事をした経験を発表し合う。 ①冬休みに、家のためにどんな仕事をしましたか。 ○大掃除の手伝いをした。 ○食事作りを手伝った。 ○洗濯物を畳んだ。	※冬休みのことを想起させ、手伝いをしたときの気持ちも振り返るようにして、教材への関心を高める。
展開	2 「ぼくのおばあちゃん」を読んで話し合う。 ①おばあちゃんが同じ習字教室に通うことになったおさむは、どうして暗い気持ちになったのでしょうか。 ○おばあちゃんといっしょなんて、かっこ悪い。 ○おばあちゃんとは比べられそうで、嫌だ。 ②おさむが、おばあちゃんの代わりに書きたくなかったのは、どんな気持ちからだと思いますか。 ○あんなに頑張って書いていたのにかわいそう。 ○おばあちゃんを元気付けたい。 ③おばあちゃんが練習を再開できるようになったとき、おさむはどんなことを思ったでしょう。 ○おばあちゃんが元気になってよかった。 ○ぼくが初段に合格したのは、おばあちゃんのおかげだよ。 ○おばあちゃん、これからも一緒に頑張ろうね。 3 家族のことについて振り返る。 ①家族がいてよかったと思うのは、どんなときですか。 ○病気の時、看病してくれた。 ○嫌なことがあったとき、話を聞いて励ましてくれた。	※体面的なことばかり気にして、おばあちゃんの思いをくみ取れない、おさむの気持ちを考えるようにする。 ※おばあちゃんがみんなに褒められているときの、おさむの気持ちを簡単に確認する。 ※ワークシートにおさむの気持ちを書き、考えたことを交流する。 ※単に「よかった」だけでなく、おさむの習字上達には、おばあちゃん存在があったこと、共に高め合っていこうとする二人が、家庭を明るくしていることに気付くようにする。 ※家族に支えられながら生きている自分と、家族を支えている自分について気付くようにする。
終末	4 保護者の話を聞く。	

5 評価

- ・おばあちゃんのことを思うおさむの気持ちや、家族の存在の大切さについて、自分自身の生活や経験を思い出しながら、自分なりに考えることができたか。